



# The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 17 | Issue 3 | March 2014

## ➡ In this issue...

- ▶ エレメンタリーゲストの訪問...p. 3
- ▶ 「ワードワーク」の発見...p. 5
- ▶ スクールカレンダー...p. 6
- ▶ Ryuunの入賞...p. 7
- ▶ ウォール・オブ・オナー...p. 9
- ▶ Japanese New Year Party...p. 10
- ▶ バスケットボールの勝利...p. 11
- ▶ ミドルスクールBrain Bowl...p. 13
- ▶ KIST主催MUN会議の成功...p. 17
- ▶ 運動競技冒険談...p. 20
- ▶ インターネットの安全な使い方...p. 23
- ▶ 卒業生レポート...p. 24

「子供たちは教育されなければいけないが、また、子ども自身自らを教育するようにもさせなければいけない。」

—Ernest Dimmet

## 学校長より

校庭の梅も花を咲かせ、まだ寒いとは言いながら春を感じさせる季節となりました。そして、いよいよ12年生のDP本試験まで2ヶ月を切りました。彼らの健闘を祈りたいと思います。

さて、今学校はミッションを達成するようさらなる教育の質の向上を目指し、来年に向け様々な取り組みを計画しています。その一つが全ての学習の道具となる英語と数学のさらなる向上です。

KISTでは昨年6月より3年生から11年生を対象にDPと繋がりが良いイギリスのKey StageやIGCSEによる数学の学力テストを導入しました。学年別に期待値が明確になったことで、生徒の現在の状況を把握することができ、目標に向かって学習を進めることが容易となりました。また、エレメンタリースクールでは算数の補習を提供したり、セカンダリースクールではレベル別に授業を行うなどして、個々に必要なサポートを提供しています。うれしいことに、Key StageやIGCSEによる学力テスト導入からまだ1年も経っていませんが、多くの生徒の数学の学力が大きく向上しました。

数学同様、今年度6月には3年生からKey Stageによる英語の学力テストを実地することを計画しています。当初は、希望者のみに2月に実地することを予定し、その旨を保護者の皆様にお伝えしていましたが、対象学年の生徒は全員が学力テストを受けることになる予定です。その学力テストの結果を使用し、必要なサポート体制を整えて行きたいと思っています。

どのようなサポート体制になるか、また上記以外にも、新たな取組を計画していますので。生徒指導型面談が行われる3月21日(金曜日)に、それらの取り組みに関して説明会を予定していますので是非参加してください。保護者の皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

**Yoshishige Komaki**  
School Director/Head of School

## DATES TO REMEMBER



### March 2014

- 14 (K1-K3) Kindergarten concert (\*Morning)
- 14 (G1-G12) Clubs program ends
- 21 Student-led conferences
- 21 Spring college fair
- 22-30 Spring break
- 31 (W) School resumes for all students

### April 2014

- 4 Last day of quarter 3
- 7 (G1-G12) Clubs program resumes
- 11 (G10) DP subject options evening
- 14 School photographs (New and absent students)
- 23 (G7-G12) Math field day (Hosted at Yokota)
- 24-25 (G5) PYP exhibition
- 29 (G12) Last day of classes
- 29 School day

### May 2014

- 3-6 Golden Week vacation
- 5-23 (G12) DP examinations
- 14 (W) Free dress day
- 23 (G12) Semester 2 reports issued
- 26-28 (G9-G11) Semester 2 examinations
- 28 PTA annual general meeting



## エレメンタリースクールニュース

### 意味のある真の教育を実践すること

意味のある真の教育とはどのようなものでしょう。IBの“Making the PYP Happen”という文献に、子供たちは、適切で本当の学習を受けることによって、実力を継続的に身につけることが出来ると書かれています。これは、生徒達が今の理解力を更に深めるためには、調査、探求、リサーチを行い、物事の関連性を見つけていくことが必要だということです。

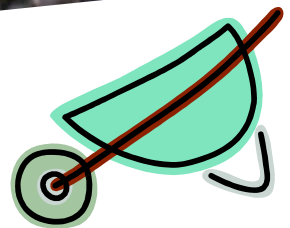
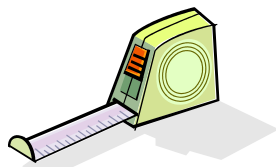
先日、K2とK3の生徒達が、関連性と目的を持ちながら探求ユニットの理解を深めるように取り組んでいました。私も一緒にこの取り組みに参加する機会が与えられました。

覚えている方もいらっしゃると思いますが、数ヶ月前の台風により、キンダーガーデンの校庭にある木が倒れてしまいました。ちょうどその時に、K2の生徒達は色々な資材について学習していました。幸運なことに、木を処理していた作業員の方々が、子供たちが見て触れることが出来るように、倒れた木で木材を二つ作っていただきました。

また、倒れた木によって壊された木製のデッキを修理しなければいけませんでした。この時偶然に、K3の生徒達がシンプルな道具について学んでいて、これは絶好のチャンスだと思いました。デッキを修理しながら、生徒達はメジャーテープを使ったり、手のこぎり、自動のこぎり、スクリウドライバーや電気がどのように使われているかを観察することが出来ました。生徒達が毎日使っている校庭なので、子供たちは率先して修理に参加していました。

探求心や好奇心をくすぐる物はいつも私たちの身近にあり、調査することで新たな疑問や可能性が生まれます。私たちが経験するほぼ全ての事柄は、私たちや子供たちに学ぶ機会を与えてくれます。Benjamin Franklinが「言われただけでは忘れてしまう。教えてくれれば覚えられるかもしれない。自ら経験できたら学習できる」と言いました。このような機会を大切に、疑問に思うことに向き合っていきましょう。

**Kevin Yoshihara**  
Elementary School Principal



## エレメンタリーゲストの訪問

2013年の年度末と2014年の学期の始まりは、生徒と先生だけでなく、エレメンタリースクール校長とPYPコーディネータにとって忙しい時期でした。International Baccalaureate PYPカリキュラムについて勉強する為に、3校がKISTに訪問されました。訪問者の方々は、私たちの教育実践法を見学し、はるばる岐阜や中国の中山区からいらっしゃいました。ゲストを迎えることによって、私たちの実力を披露できる機会ができ、また自身の取り組みを新たに検討することが出来ました。訪問校の方々の質問は、私たち自身がどのように教育を実施し、学校の目標の設置や達成にむけ取り組んでいくべきかを改めて考えさせられるような難しい内容のものでした。



私たちのインフォメーションツアーに参加なさったのは、岐阜のSunnyside International Kindergarten、中国の中山区Majestic Garden Kindergartenと埼玉のKaichi Comprehensive Schoolの方々でした。みなさんは、私たちがチャレンジを要するけれども暖かく心地がいいバランスのとれた環境を、IBの方針に沿った上で、生徒と先生のニーズに応えながら提供していることに感心していました。また、探求を通して各クラスが作成した、カラフルで芸術性豊かな作品に対して多くのほめ言葉を頂きました。クリエイティビティーと学習が合わさった生徒達の学習の成果が、各クラスから廊下にあふれ出しているように感じられました。

エレメンタリースクールの先生たちも感じているように、訪問者から受けたほめ言葉や刺激的な質問によりMr Yoshiharaと私は誇りに思う気持ちで一杯になりました。

**Clay Bradley**  
PYP Coordinator

## K3 深川消防署への遠足

私たちのユニットの一つ「世界の仕組み」で、K3は様々なシンプルな道具について学び、人々が作業を行うのに道具がどのように役立っているかを学習しています。これは学んだことがすぐ活用され、生徒たちが身の回りのシンプルな道具を発見できる楽しいユニットです。

このユニットの一環とし、2月24日に生徒達は深川消防署を訪問しました。消防署に到着する前から生徒達はバスの中や外で見つけたシンプルな道具について「このイスにはネジがある！このバスには車輪とアクセルがついている！傾斜台だ！」などはりきって言っていました。バスに乗ってから10分程で消防署に到着し、5台の消防車、2台のオートバイと制服を着た消防士さんたちが、私たちを出迎えてくれました。

代表の消防士Mr Koikeが、署にある消防隊の方々を使う用具や乗り物を見せてくださいました。生徒達は、燃えている3階から消防士さんが人を救出するという設定のトレーニングを見学したり、消防車の運転席に交互に座らせてもらうことまで出来ました。

消防署で、子供たちはシンプルな道具について自分たちの持っている知識を応用することが出来ました。生徒達が観察できるように地面に置いてくださった、3階の高さまで伸びるはしごをじっくりみて「はしごに滑車がついている！」とSakuが感動して言っていました。最後に消防署の前でMr Koikeと一緒に集合写真を撮り、みんなでお礼を言いました。Mr Koikeがまた来てくださいと言ってくれました。素晴らしい時間を過ごすことが出来ました！

**Christie Chung**  
K3B Teacher



## K2 地球の共有

私たちの新しいliving things(生き物)の探求ユニットで、生き物とは何かについて学んでいます。ユニットを始めるにあたって、K2の生徒達に生き物とは何かを質問し、既に自分たちが生き物について知っている事を話し合いました。子供達はほぼ全員、寝室、居間、スプーン、フォークやトイレが生き物だと答えました。**David**が、living thingsは住んだり寝たりする場所のことだと答えました。**Aina**は、お風呂にも入れる場所だと言いました。生き物について本を読み、植物、動物や人(動き、成長、変化するもの)はみんなliving thingだと知り、子供たちは口をぽっかりあけ驚き、質問が途絶えませんでした。**David**が、「木は動かないのになんで生き物なの?」と聞きました。**Lisa**は「ポップコーンは弾けるから生き物?」と、また**Yuma**は「津波は上下に動くから生き物?」と聞きました。「なぜ生き物は動くの?」と**Fuwa**は質問し、**Max**は生き物に食べられてしまいそうで怖いと言っていました。

生徒達は、水をあげ世話をする植物を各自クラスに持ち寄りました。それに加えて、植物の種を植え、種が苗に成長していく様子を絵と文章で日記に記録することになっています。教室には亀、えびと金魚のペットもいます。生徒達はペットたちが元気に育つように、毎日責任をもって餌をあげています。

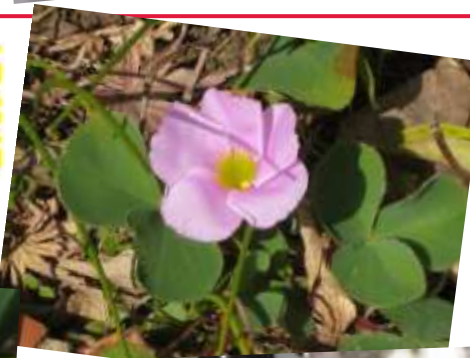
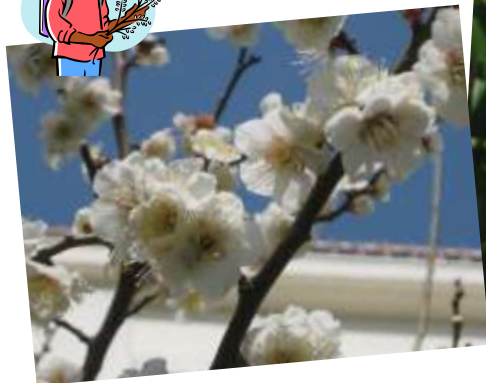
G1のお友達が私たちに大きな大根を寄付してくれました。大根も生き物なので、大根がどのように成長し変化するか話し合いました。子供たちは、普通の細長い大根と違って、異様にまんまるい大根をみてビックリしていました。算数の授業では、重さの量り方について学んでいます。教室にある物を持ち出し、二つの物の重さを比較しました。大根の重さは15.5キロで、K2の中には大根よりも軽い生徒がいることがわかりました!

**Claire Yoneyama**  
K2 Teacher



## 春の兆し

まだ寒い日が続くなか、学校の敷地内では様々な春の兆しが感じられます。



## 「ワードワーク」の発見

「ワードワーク」とは、グループになっている単語の意味や、スペルのパターンと発音の関連性について研究するアクティビティです。学年を越え少人数のグループになって、多くの生徒がこのアクティビティに参加しています。例として、*feather*、*creature*、*indeed*、*weather*、*steady*、*extreme*の単語を見てみましょう。この単語には共通点がありますか？違いはなんですか？この単語をどのように分類できますか？（ヒント：“e”の短い音vs長い音。分からない場合はG4に聞いてみてください）もう一つの例です。次の言葉の共通点はなんでしょう？*shorten*、*summarize*、*clarify*、*harmonize*、*visualize*、*sweeten*。分かりましたか？この単語の接尾語は全て、「〇〇にする」という意味をもっています。（*short*<短くする> *a summary*<要約する>、*clear*<明確にする>など）どうして違う接尾語が同じ意味を持っているのでしょうか？研究は続きます。これらの例は、生徒達が毎週研究する多くの言葉やそのパターンと意味の一例にすぎません。この活動によって、生徒達は



文章を書いたり、ディスカッションを行うときに活用できるボキャブラリーや、スペルの知識、発音やコンセプトを発達することが出来ます。

が出来ます。

またワードワーク中に交わされる会話はしばし、私たちのバイリンガル・トライリンガル教育を促進させています。これから挙げるGrade 4の最近の活動例で分かるように、多言語教育を強化するために、保護者の方々にもご家庭で協力をしていただけることがあります。私たちは“aw”と“au”について勉強し始めました。その一例として“dawn”があります。最初生徒は、どの絵が“dawn”にマッチするか分かりませんでした。一人の生徒が、日が沈む（“down”）風景が描かれているきれいなピンク色の空の絵を選びました。確かに“Down”と“Dawn”は似ています！生徒達が二つの単語の発音について話し合い、単語の意味を比較できる良い機会となりました。“Dawn”は、日が昇る直前の状態を指します。最後に生徒達に、他の言語で“dawn”をなんと言うか質問しました。その場で保護者の方々の助けがあればよかったです。ご家庭で私たちの質問に答えていただけたと思います。お子さんに、ワードワークでの質問を聞いて、私たちが一つでも多くの言葉を知ることが出来るようにご協力ください。



**Rachel Parkinson**  
Elementary ELS Coordinator

## Grade 3 フラッシュモブ

### Grade 3によるKIST史上初のフラッシュモブ

“Everybody dance now!”という歌にあわせ、2月28日（金）のリセスの時間に、Grade 3の生徒達はKIST創立以来初のフラッシュモブ、ダンスパフォーマンスを披露しました。10:20頃に学校のスピーカーからC&C Music Factoryの90年代ヒット曲“Gonna Make You Sweat (Everybody Dance Now)”が大音量で流れ、Grade 3の生徒達45人は校庭でパフォーマンスの主演となりました。

「私たちはどのように自分を表現するか」というユニットの一環でフラッシュモブを行い、私たちの文化がダンスはもろんのこと、アートや音楽を通してどのように自己表現をし



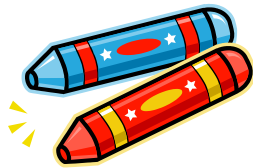
ているかについて目を向けてきました。フラッシュモブは大成功に収まり、生徒達のパフォーマンスを楽しんだ学校中の生徒、先生、オフィススタッフや保護者の方々から沢山の歓声と拍手を受けました。

このパフォーマンスはKISTで最初で最後のフラッシュモブだったかもしれません。パフォーマンスを見ることが出来た方々はラッキーだったと思います！

**Julia Lupone**  
G3A Teacher



## アートスナップショット



Grade 3ではここ数週間にわたりポップアートペインティングの作成に取り組んでいます。最終作品で、生徒達はviewfinderを使って自分達の靴の一部を拡大し、ポップアーティストAndy Warholのインスピレーションを受けた作品のベースとして使いました。

作品を制作する課程で、生徒達はよく考えながら(thinkers)新しく学んだペインティングのテクニックを応用する必要がありました。

補色について学んだ知識(knowledge)や、補色を隣り合わせることで、人目をさらに引くような作品が仕上がる事などを念頭において作業するようにアドバイスされました。

**Helen Campbell**  
PYP Art Teacher

## スクールカレンダー

海外への家族旅行を計画なさる方々は、以下に記載されている2014-2015年度スクールイヤーの休みの日程をご確認ください。お子さんが、各休み明けの登校日に学校に出席できるように旅行を計画してください。正式なスクールカレンダーは6月に配布されます。

- [First day of school:](#) August 18, 2014
- [KISTival:](#) October 25, 2014
- [Autumn break:](#) October 26 – November 2, 2014
- [Winter vacation:](#) December 13, 2014 – January 5, 2015
- [Student-led conferences:](#) March 21, 2015
- [Spring break:](#) March 22 – 29, 2015
- [Golden Week:](#) May 3 – 6, 2015
- [Last day of school:](#) June 10, 2015

**2014-2015**  
**school year**



また年度初めに開催されるParent Welcome Nightsのスケジュールが、来年から変更になります。詳細につきましては以下を参照ください。

- [K1/K2/K3 Parent Welcome Night:](#)  
Thursday, August 14, 2014
- [G1-G5 Parent Welcome Night:](#)  
Wednesday, August 27, 2014
- [G6-G12 Parent Welcome Night:](#)  
Friday, August 29, 2014

## Ryuunの入賞

昨年に続きKIST Elementaryから青少年読書感想文全国コンクールへ学校代表として祐大君(G3A)、龍雲君(G4A)、伝君(G5B)の3名が作品を応募しました。その中から特にG4の龍雲君の作品は都の審査会へと進み、賞状が授与されました。これは都内の児童生徒の約27万作品から選ばれた534点にのみ与えられた栄誉です。

龍雲君から一言「初めて出たのに入賞できたのでとてもいい結果だと思っています。でも、トップになれなかったのが、くやしいです。次回はもっと良い賞をもらいたいです。」

指導された鳥養先生から一言「おめでとうございます。龍雲君はいつも感想を話す時に、自分がなぜそう思ったのか必ず理由を話してくれたり、自分の経験に置き換えて考えたりしています。本から学ぼうという姿勢に溢れています。これからも日本語の本もたくさん読んでください。」

皆さんも読書感想文書きに挑戦してみましょう。

青少年読書感想文コンクールは毎年夏休み明けに行われます。また現在小学生対象のさくらメダル感想文コンクール



Ryuunはこの本についてエッセイを書きました。



が開催されています、ふるってご参加ください。詳細は日本語のクラスでお知らせします。

青少年読書感想文全国コンクールについては以下のサイトをご覧ください。

<http://www.dokusyokansoubun.jp/>

## Grade 1 Inquiry

Grade 1では、4つ目の探求ユニット「世界の仕組み」を学習し終わりました。セントラルアイデアは「人は資源を様々な方法で利用する」でした。生徒と先生たちは一緒になり、資源の使い方や、私たちの日常の選択がどのように周囲の環境に影響を及ぼしているかについて考えました。クラスの取り組みとして、一人ひとりが日々の生活の中で資源の使い方を改善することを決意しました。

サマティブアセスメントにむけ生徒達は、自分達が中心となって行う個人プロジェクトの題材となる資源を決め、発表方法を選びました。家で資源について行ったりサーチの情報をを使い、学校で記録を完成させました。そして本、ポスターなどの発表準備を完成させる前に、文章の最終確認をし、ライティングのスキルを高めるために先生と面談を行いました。先生とGrade 4のメンターたちをエキスポに招待して、自分達のプロジェクトを発表しました。生徒達は、学校コミュニティの皆さんと自分達が学んだことを共有できたことが嬉しく、エキスポに参加した沢山の人が残っていた感想を嬉しそうに読んでいました。

KISTでは年齢が一番若い生徒たちでも、社会に貢献することが出来ると信じています。私たちの生徒は地球の将来を担っています。Grade 1の生徒達が資源の大切さについて学んだことを心に留めて、地球に貢献出来るような人に成長することを願っています。

**Jennifer Campbell**  
Grade 1B Teacher



## セカンダリースクールニュース

今号のThe Cometでは、生徒による記事がさらに増えていることに、保護者の皆さんも気がつかれるでしょう。校長の立場から、本校で起きている生徒主催の数多くのイベントを知る手段として、本誌面は一番よい場所だと思います。

### ランチタイムコンサートシリーズ

セカンダリーSRC(生徒会)が、KISTに新しい恒例イベントを生み出そうとしています。SRC後援の下、「生徒のために、生徒の手による」が、新しい構想と共に現実となりつつあります。そのひとつとしてセカンダリーのランチタイムコンサートシリーズが、1月から開始されました。およそ毎月2回、ランチ休憩中にセカンダリースクールの生徒向けに、生徒自身が演奏します。発表が進むと、鑑賞力のある聴衆が続々と集まり、その前で1つないしは2つのパフォーマンスが行われます。これらの発表は、セカンダリースクールに在籍する生徒なら誰でも行うことができますが、そのためにはSRCに簡単な申請を行なう必要があります。このイベントが、新しい事に挑戦できる場として提供されていること、さらに年度末のコンサート全般に役立つようにと願っています。

ランチタイムコンサートシリーズは、挑戦する人・思いやりのある人というIB Learner Profileの属性を獲得する生徒のよい事例です。このようなイベントでは、生徒が自発的に参加し、主導権をもち、先生や監視者は単なるアドバイザーに徹するという、内在工作を体言するものです。この努力が年間を通して継続されていくことを切に願います。

この記事執筆中、他にも生徒主導によるすばらしい出来事が始まろうとしています。MYPのグレード10の生徒が、自身の学習成果を発表し称える機会として、3月7日(金)にG10個人プロジェクト発表会を主催します。今年度の生徒代表は、西館受付カウンター上部に設置されている学校内の活動等を案内する、テレビ画面用として、個人プロジェクト発表会のビ

デオを作成しました。生徒には一般的なガイドラインは示してあげましたが、ランチタイムコンサートシリーズ同様、ますます生徒自身が主導権を握り、偉業を達成しています。これは単なる偶然の一致というより、本校の文化がそのミッションに沿い、醸成された良い環境のためといえるでしょう。

### 教科書交換 2014

2012年から教科書交換のイベントを開始しましたが、今年も行います。基本的な考えとしては、進級や卒業をする生徒が、進級してくる下級生に中古価格で教科書を販売するというものです。グレード5からグレード6に進学する生徒、その他のグレード進級生、そしてもちろんディプロマをはじめの生徒も、興味があるでしょう。学校側は、推奨価格スキームを作成しましたが、全ての販売は学校側が責任を持たず、売主と買主間で行います。昨年は、教科書交換は、ファミリーデーに開催されています。おそらく今回も、全ご家庭と接触することが容易である同様な計画になるでしょう。今年、5月31日(土)がファミリーデーの予定です。

2014-2015教科書/デジタル品購入



Secondary lunch time concert series, February 2014

リストは、5月中旬までに改訂され、実際の教科書交換の前に全ご家庭にご案内いたします。教科書は毎年変更がありますので、リストで中古販売されている教科書等は最新であるかどうか必ずご確認ください。中古教科書によっては、すでに使用されていないものもありますが、親御さんが古い教科書も追加のサポート用に有用と考えるかもしれません。当事者同士で行われた購入には、本校は直接関与せず、一度購入したものは返品等できません。

**Stephen Rothkopf**  
Secondary School Principal



## 新入スタッフ紹介

前回のThe Cometが発行されてから、新たにスタッフが仲間入りしました。スクールコミュニティを代表して皆さんのご活躍を祈り、共に楽しい時間を過ごせることを願っています。



**Michael Davignon**  
LEAP Instructor /  
Relief Teacher



**Jonathan Homewood**  
MYP Science /  
DP Biology



**Nomingerelei Ulzii**  
Systems Engineer



## KISTスプリングビー

1月27日に第3回KISTスプリングビーが、ジムで開催されました。Grade 6の競技者達は、Jun Hyuk、GaOnとAyianでした。Grade 7の競技者達は、Won Tae、Jin IlとGauthamでした。Grade 8からは、Ayaka、Lae EunとSelenaが競いました。

競技者達は、各英語クラスで行われた予選により選抜されました。11月以降、競技者は毎日クラスや、家庭や友人と一緒に練習を続け、決勝に臨みました。KISTスプリングビーの開催日には、Grade 6から8までの全生徒が同級生を熱心に支援しました。親御さんや先生も大会にまねかれ、ジム内は良い意味で競争意識に包まれました。

スプリングの19問目を終え、Gautham (G7B)が2013-2014第3回KISTスプリングビー大会の優勝者となりました。全参加者が祝福を受け、参加証明書を渡されました。決勝に臨んだ3名のJun Hyuk、Gautham、Lae Eunには、商品券が授与されました。さらに、優勝者は、Encyclopedia Britannicaの無料購読と2014年3月22日に開かれるJapan Timesスプリングビーへの参加権を獲得しました。Japan Timesスプリングビーで優勝した学生には、アメリカで開かれる世界各国の代表による2014年国家スクリップススプリングビーチャンピオンを決める大会へ招待されます。

全参加者が健闘しましたが、特にGauthamはdodecahedron (12面体)やgravitational (重力の)といった辞書をひかなければならないような難易度の高い単語を見事にスペルアウトしました。KIST代表として、GauthamがJapan Timesスプリングビーで活躍してくれることを祈ってます。代表としてがんばってください！

Keina (G7A), Tom (G7A) and Tae Won (G7A)



おめでとうGautham !

## ウォール・オブ・オナー

セカンダリースクールでは、日々Learner Profile属性を発揮している学生を称賛し、オフィス隣の壁を利用して賞賛しています。この壁を、「ウォール・オブ・オナー」と呼んでいます。Grade 6~8の学生は、日常のクラス内外で先生や同級生との相互作用を介し、Learner Profile属性を発揮していると思われる学生をノミネートしています。

仲間のクラスメートをノミネートするには、実際にその生徒が行った行動を事例にして、どのようにLearner Profileを体言したかを説明しなければなりません。生徒のノミネートの後、Grade 6~8の先生がノミネーションを話し合い、誰にウォール・オブ・オナーの証書を授与するか決定します。その生徒は、この出来事の記念として、壁に自身の手形を押してもらいます。手形は一つ一つ別の色で押され、その下に生徒の名前、Learner Profile属性と証書授与日が書かれています。

無記名でクラスメートを称えるには、すばらしい方法だと思います。ノミネートした人は必ず選ばれるという保証はないものの、次の学期の間、ウォール・オブ・オナーにふさわしい人物かどうかの検討は長時間をかけて行われます。Grade 6~8の生徒で、学校内でLearner Profile属性を発揮していると思われる人を見かけたら、ぜひノミネーションしてあげてください。ノミネーションの起票紙は、各Grade 6~8のホームルームにおかれています。時間もお金もかかりません。

Sophia (G7A)



## Japanese New Year Party

ボランティアをしたスタッフ、そしてお相撲さん方のおかげで、1月29日に行われた新年会はものすごく盛り上がるイベントでした。毎年私にとって一番楽しいのは、お相撲さんとの戦いで、勝つための計画を友達とたてることです。今年は、バトルダンスをして、勝ちました。これから、お相撲さんとの戦いでどうすれば勝てるのかを聞かれ「ダンスをすればいい」と答えるのが待ちどわしいです。

**Angela (G10A)**

毎年、私の学校に来て新年パーティーをしてくれて本当にありがとうございます。私たちの母国でも餅を食べながら新年パーティーをしますが、日本の新年パーティーは日本なりの魅力と楽しさがありました。特に、目の前で日本の伝統である相撲が見られて本当に嬉しかったです。去年も今年も本当にありがとうございます。

**Sae Lim (G10B) and Ji Ye (G10B)**

今年の新年会のけいけんはよかったです。すもうさんとすもうをすることがとっても楽しいでした。みんながこれをやるや見ることも楽しみにした。みんなの顔に笑顔があつて、おなかが痛くなるまでみんなさんが笑いました。この後に、私たちがもちつきをして、いろんな味(例えば、のり醤油や甘いごま)があるもちを食べました。たくさん宿題がある中で、新年会が気持ちをさわやかにしてくれました。

**Anisha (G10B) and Muskan (G10A)**

1月29日に学校での新年会がありました。この新年会で相撲さんに対決したり、餅つきをしたり、ついた餅を食べたりしました。生徒達と先生達がお相撲さんに対決した時、みんなが本気出していたのに、相撲さんは全く余裕でした。餅つきをした時、みんなが「よいしょ～」の掛け声で盛り上がりました。餅の味が、あんこ、きなこ、しょうゆと黒ゴマの四種類があつて、全部美味しかったです。来年の新年会が待ち遠しいです！

**Megan (G10B) and Misol (G10A)**

新年会はとても面白かったです。色々なお相撲さんが来ていっしょに相撲をやりました。僕たちは3人のグループでやったけど負けました。お相撲さんはとても強かったです。先生たちも相撲やりました。とても面白かったです。最後にもちを作ってたべました。とてもおいしかったです。

**Ryu (G10A)**

僕は毎年新年会を経験していますが、毎年おもちを作るお母さんたちに感謝しています。寒中おもちを僕たちのために作ってくれています。お相撲さんたちもがんばっておもちをついていました。感謝です。僕はしょうゆのもちが一番好きです。毎年食べても変わらないあの味がとても好きです。

**Kwan Woo (G10A)**



ケイインターナショナルスクールでお相撲さんが来てくださり、学生と一緒に正月のパーティーを盛り上げてくれました。これとてもいい経験でした。日本の文化にも慣れました。例えば餅作りや相撲をしたりして、勉強から離れて、とてもうれしかったです。

**Aditya (G10B) and Azzam (G10A)**

新年会では相撲選手とすもうをしたり、もちつきをしたり、餅を食べたりとても楽しかったです。まずは、相撲選手と相撲をしました。僕はヘイミッシュと共に相撲選手に挑みました。しかし最後は負け、ちょっと悔しかったです。その後は餅つきをし、あんこ、きなこ、しょうゆ、黒ごまの味付けがされた餅を食べました。とても美味しかったです。

**Hee Dae (G10A)**

今年の新年会イベントでは、MYPの五年間のストレスをリリースしました。すもうさんと一生懸命エクササイズをしました。その後、餅を食べたり、餅つきもしました！とても楽しかったです。私たちの生活のなかで、思い出となる楽しい一日でした。

**Raghav (G10A) and Raj (G10B)**

1月29日、学校で新年会がありました。この日にはお相撲さん達が来て餅つきをしました。そこには4種類の餅、きな粉、ごま、しょうゆと小豆がありました。この餅は全部美味しかったです。この餅は相撲さんと学生たちが一緒に作ったので、もっと美味しかったです。このあとには相撲もしました。生徒と先生たちは相撲さんと刺激的な競争をしました。全体的に私たちは美味し餅と相撲さんに会うことができたのでとても楽しい日でした。

**Aashvi (G10B) and Ji Eun (G10A)**

2014年1月29日にKISTIは新年会に参加しました。最初に、おすもさんたちと大会をするためにジムに行きました。みんなは勝つために頑張りましたが、やっぱり強いおすもさんたちが勝ってしまいました。次に、ジムの外に出るとおいしにおいがしてきました。それはもちのにおいでした。おもちを食べるために、お相撲さん達と餅つきをしました。最後に、私たちはいろんな美味しい餅を食べました。本当に楽しかったです！

**Saya (G10B) and Yu Jin (G10B)**



## バスケットボールの勝利！

男子バスケットボールチームは、今シーズンの締めくくりとして、3月1日(土)に東京ブリティッシュスクール(BST)で開かれたISTAAバスケットボールトーナメントに参加しました。

残念ながら、同日はその他の予定があり、参加できなかった選手もあり、トーナメントは全力で戦う覚悟でした。

1回戦は、対CISで苦戦となりましたが、接戦の末、勝利しました。2回戦は、TISと戦いました。彼らもまた、手ごわい敵であり、オーバertimeの末、勝利しました。

次のゲームはKAISで、競い合いの末、後半戦に逃げ切って勝利を収めました。

最後の試合は、やはり不敗記録をもつBSTと戦いました。この試合の勝者がトーナメントチャンピオンとなるわけです。試合ははじめからリードをしていたものの、早い時間にファウルをとられてしまいました。しかし、チームの残りのメンバーが健闘をみせ、強豪のBSTを相手にすばらしいディフェンスを示しました。喜ばしいことに、我が校チームは持ちこたえ、意味のある勝利を収め、2014 ISTAAバスケットボールミドルスクールチャンピオンとなりました。

コメント、良くやりましたね！



(L>R) Mr Grant, Michael (G6B), Won Tae (G7A), Moe Min (G8B), Deniz (G5B), Ke Yi (G8B), Kenzo (G6A), Jovonne (G7A)

## English Day

English Day at Kの開催のためお手伝い頂いた皆様には心より感謝しています。この度の開催するまでには数々の困難がありました。大雪の為開催日が変更したり、開催日が変更になった為ボランティア人数の確保も困難な状況の中、様々な方のご協力により無事開催することができました。

前回のEnglish Dayの反省点から、申込者数160人に近づける為、今年は早くから申し込みを開始しましたが希望数には及ばず、皆様に再度アナウンスさせて頂き参加者の数を昨年より増やすことができました。また日程変更の為参加者のキャンセルを懸念しておりましたが、13名のみキャンセルで料金を頂いた参加者数は84名になり、ほっと胸を撫で下ろしました。



今年のEnglish Day at Kはたくさんの方のご協力のお蔭で交代で休憩を取ることができ、一層スムーズに運営が可能になりました。今年もセカンダリーの生徒、エレメンタリーの生徒は素晴らしい活躍をしてくれました。セカンダリーのボランティアのお蔭で外部からの生徒は安全に楽しく過ごせました。素晴らしい子供達に恵まれ幸せです！ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。今年のEnglish Day at Kは先生、オフィス、保護者、生徒が一丸となって成功を導くことができました。

また、激務を共に乗り越え、どんなときも共にEnglish Day at Kの開催の為に快く多大な力を惜しみなく貸してくれたMitsuko Morooka, Emiko Menonには言葉では言い表せないほど感謝をしています。彼女達がいなければEnglish Day at Kを開催することは出来なかったです。

**Kaori Meguro**  
PTA Events Committee

## クラブ紹介

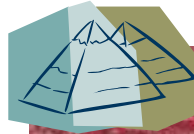
### パフォーマンスアートクラブ

エレメンタリーパフォーマンスアートクラブではGrade 4、5の生徒達が演劇や音楽を通し、自分を表現する方法を研究します。生徒達はグループまたは個人で、アSEMBリーやスクールコンサートで発表するためのパフォーマンスを作り上げます。パフォーマンスクラブの生徒達は、キンダーガーデンコンサートで色々なパフォーマンスを発表し、MCの役も果たすことになっています。当クラブに興味があって、パフォーマンスや新たなスキルを身に付けたい人は是非、Mr Robertまで連絡ください。



### 科学捜査ミステリークラブ

セカンダリースクール、科学捜査ミステリークラブの生徒は、不審状況の探求を通じて批判的思考のスキルを向上させることができます。マヤ文化とその消滅、与那国の石、火星のピラミッドや古生物学や応用海洋学に関するミステリーなどが、その例です。



その他にも、ミステリー解決に必要な証拠獲得に使用できる、実用的なツールもあります。スパイメガネ、見えないインクの解読器、探偵の変装により、生徒は現実的な調査状況に没頭し、経験することができます。この経験は、生徒が環境分析をし、与えられた情報により決定を行うときの注意の払い方の練習になります。



## サマープログラム



現在、2014年KIST LEAPサマープログラムへの申し込みを受付中です。今年のプログラムは以下のとおりです。

6月16日(月)～6月27日(金)

### 1. サマーデイキャンプ

[新K2から新G1に入る生徒向け]

このプログラムは、英国のキーステージ1の数学と英語のカリキュラムを元に、楽しみながら生徒の英語スキルの向上と、数学の理解を促すことを目的に構成されています。

728 (Monday) - 8 August 8 (Friday)

### 2. サマーアカデミックプログラム

[新K2から新G1に入る生徒向け]

このプログラムは、英国のキーステージ1の数学と英語のカリキュラムを元に、楽しみながら生徒の英語スキルの向上と、数学の理解を促すことを目的に構成されています。

### 3. サマーアカデミックプログラム

[新G2から新G5に入る生徒向け]

このプログラムは、英国のキーステージ1および2の数学と英語カリキュラムを元に、生徒の数学と英語スキルを伸ばすことを目的に構成されています。

### 4. サマー集中プログラム

[新G6から新G9に入る生徒向け]

このプログラムは、英国のキーステージ3および国際GCSE(IGCSE)数学と英語カリキュラムを元に作成されています。

### 5. サマー集中プログラム

[新G10から新G12に入る生徒向け]

このプログラムは、国際GCSE(IGCSE)、およびIBディプロマの数学カリキュラムを元に、DPに向けて数学で必要とされるスキルをのばすことを目標に作成されています。

夏季プログラムの詳細情報は、以下のアドレスからご覧になれます。

<http://www.k-leap.jp/node/summer-program-2014>

## ミドルスクールBrain Bowl

2014年2月12日(水)、光が丘にあるアオバ・ジャパン・インターナショナル・スクール(AJIS)主催のミドルスクールBrain Bowlに参加しました。MS Brain Bowlは、12のインターナショナルスクールのG6～G8の生徒が集まるイベントです。私たち参加者は、学校や年齢の異なる4人の学生からなるチームに分かれ、アクティビティーに参加します。最初にチーム独自の名前をつけ、自分のチームの横断幕を作成します。その後、一般クイズ回、ブザークイズ回、ノベルティークイズ回が行われます。



私が入ったチームU(チームユニティー)では、自己紹介で誰が口火を切るかでみなが受け身状態になってしまい大変でした。私のチームメートは、それぞれ別の分野を得意としていました。私はギリシャ神話をよく知っていましたが、他のメンバーには歴史と首都を知っている人、またスポーツの知識がある人、そしてその他に楽器に適応力がある人がいました。

MS Brain Bowlに参加するのは初めてで、私はどのような事が起きるのか見当もつきませんでした。しかし、チームメート達はとても親切に説明してくれました。皆を真似て、少しずつ理解していきました。ライティングの回ではとてもうまくいきましたが、ブザークイズの回では、一回もブザーを押すことができませんでした！どの質問の回答も私が知らないものや、確信を持って答えられないことでした。一か八か試してみてもよかったです、チームに迷惑をかけたくなかったので、間違えるよりは安全な方法をとりました。ノベルティークイズの回では、予想外の問題が出て難しかったです。クイズが終了するころには、私は机に頭をうなだれてしまい、まるで脳が割れてしまったような感覚でした。

概して、参加し経験できたことはよかったと思います。脳内のスイッチを働かせるだけでなく、チームワークをうまく行うことも大事です。Brain Bowlイベントでは、チームとして取り組まないと何もできないのです。もし、このイベントに行きたい人がいたら、気軽によい態度で取り組んで楽しんでね、というアドバイスをあげたいと思います。物事にためらいすぎて態度が悪い場合は、チームメートにも迷惑をかけます。私は、最初の回が始まった時点で、チームワークの大切さを認識しました。チームユニティーは、最終的に9位となりました。

Marlinah G6A

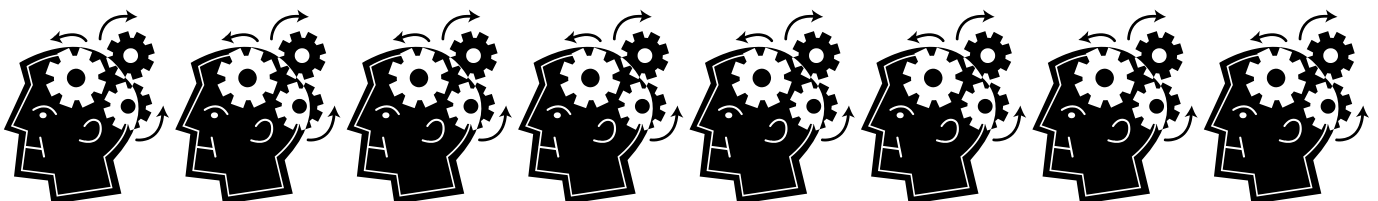


私は、代替チームのひとつであるチームガンマに属しました。チーム全員がとても協力的で一緒に楽しんで行える人たちでした。私達は最初の回で何度か争いがありましたが、初対面から10分もしないうちに友達になりました。

代替チームだったので、2回目のブザークイズ回には参加しませんでした。参加することはできなくても、他のチームの観戦をして楽しみました。3回目は、私の気に入りました。昔のディズニー映画からわずかに変わっている点を見ることができて、ディズニー映画をタイムラインにいれるのは楽しかったです。日本食に関する質問は、記述に対して日本食名を当てなければならぬので一番難しい質問でした。

このようなイベントには初参加だったので、とても緊張しました。よい経験になり、来年のMS Brain Bowlにはボランティアとして参加したいです。

Katherine G6B



## IB教育者ネットワーク

ご存知のようにIBのミッションは、世界をよりよい場所にするために活動するというものです。KISTのミッションも共通の目標を掲げ、KISTの学生はその業務とプログラムを通しよりよい地元コミュニティーを作る活動に参加しています。教育機関として、KISTはIB自体との直接関与を通し、IBミッションの実現を支援する多大な努力をおこなっています。

私たちが貢献できる方法のひとつは、地域内にある他校からの視察を受け入れることです。Mr Bradleyが3頁目で説明しているように、最近日本国内や中国からの学校視察、および能力開発の機会を持ちました。その他にIBを支援する方法は、IBENという、IBのサービスを現在と未来のIB学校に提供するIB実践者のネットワークを通じて行うものがあります。KISTで勤務する先生の比較的大半が、ワークショップでの指導、DP試験の採点者、認定または認証評価のための学校訪問、認証コンサルタントとして、または評価サンプルの作成・採点等などによりIBENに関与しています。この支援なしでは、現在のレベルまで学校を発展できず、IBプログラムの発展を維持することもできないため、IBにとって不可欠であります。

最近、Mr Coweと私はIBENの追加トレーニングへ招かれました。今回、初めてシンガポールの新しいIBアジア太平洋オフィスを訪れました。新事務所はきれいで、バットマンのGotham Cityに出てくる建物に似ているビル内にあると聞いていて、トレーニングの機会自体に加え、シンガポールへの道中は事務所の様子やいつも連絡をとるIB職員がどこで働いているかを見るのが楽しみでした。

研修は、期待通りで特別なものでした。また、IB教育を実施している学校に対する支援をさらなる改善する目的でこれから始まるイニシアチブやサービスを垣間見られた点も見識深いものでした。研修は週末でしたが、多数のIBオフィス支援スタッフが一同に集まり、普段はEメールでやり取りする人々と会うことができたのもよかったです。建物自体もすばらしく、'Gotham City'に似ているという評判どおりで、多くの人が親しみをこめて「Gothamビル」と呼んでいる所以です。

**Jeffrey Jones**  
Director of Education



**IB Asia Pacific Office Building**  
Photo by Anja van der Vorts  
([www.curlytraveller.com](http://www.curlytraveller.com))

## ITニュース

### Individual student laptop requirement for G9 in 2014-2015

KISTではここ数年間全てのG10-12の生徒には自身のラップトップを学校に持ってくることを決定しましたが、ディプロマプログラムと大学入学に備えて、2014年8月から全てのG9の生徒には自身のラップトップを学校に持ってくることを決定しました。

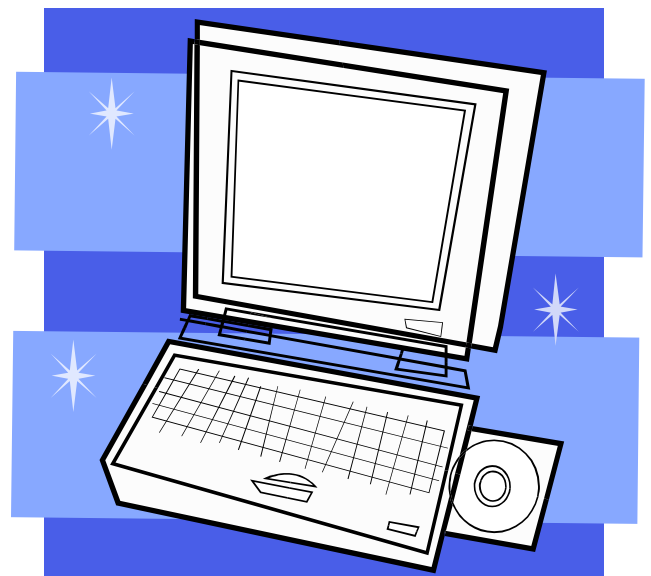


KISTではMicrosoft Windows、Microsoft Office及びSharePoint Onlineを利用しています。教員と生徒が使用するパソコンの環境を揃えることによりスムーズな授業が行えると考えています。又、サポートに関しても充実させられることが出来ます。生徒が学校に自分のラップトップを持ち込んで使用する場合には下記の仕様を満たしていることが必須です。仕様を満たしている場合に限り1人が1台のラップトップを学校の無線LANに接続する為の登録を受け付けます。



又、ラップトップの情報を登録するので持ち込むラップトップが変わった場合には再度登録が必要があります。

**Robert Whittaker**  
IT Software/Hardware Coordinator  
KIST IT Office



## Grade 8言語A 英語

### つながりを作る

8年生の英語Aのタスクのひとつに、生活で差別を経験した人たちの実話に基づくドキュメンタリー小説の解析があります。難しい点は、このような人たちと実際につながりを築かなければならない点でした。このドキュメンタリーを示す他の手法としては、スクラップブック、E-ブックまたはビデオがありました。タスクを完了するために、どのような経験をしたのかを述べていきます。



# カ

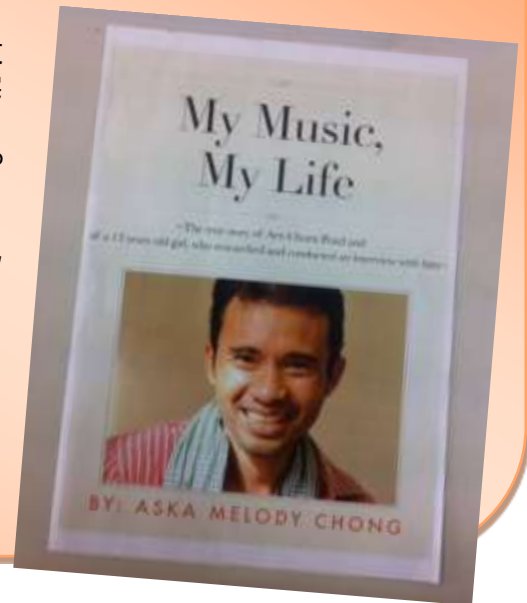
ンボジアの大虐殺の被害者であり、生存者でもあるMr Am Chom Pondの経歴に驚愕し、私は「My Music, My Life」というE-ブックを作りました。この本は2つの話からなっていて、一話目では、この課題に取り掛かる途中の過程と気持ちを描き、もう一話

ではMr Am Chom Pondのクメール・ルージュによる大虐

殺による悲劇前、最中、およびその後の人生を書きました。

Cambodian Living ArtsのスタッフであるMr Frances Rudgardの支援を受け、Mr Am Chom Pondさんとスカイプによるインタビューを実施し、生き残り話や大虐殺の間の苦難等のお話を聞くことができました。およそ30分間におよぶインタビュー中、Amさんが感傷的になってしまう瞬間もありました。しかし直接インタビューを行える相手がいる幸運にめぐまれ、実際にインタビューを受ける方の気持ちと経験を一番に伺うことができました。今の目標は、最終的な形として、E-ブックを発行することです。本一冊を編集するのは本当に大変で、スキルや責務を要します。寝不足のまま、さまざまな困難を乗り越えました。しかし、このタスクによって、英語への情熱を認識することができたのは、とても貴重な体験であったと思います。

Aska (G8A)



# 生

徒として、コンゴ戦争で子供の兵士として戦う困難な時を過ごしてきてMr Michel Chikwanineさんをインタビューできるのは本当に冒険的な経験でした。インタビューを行ったことで得た最大の結果は、その事件に対する彼らの感情に触れることができたことです。Eメールでのやり取りしか行えなかったものの、文面からそのダイナミックな感情を読み取るこ

とことができました。これは、2次的情報源のように改訂も入らない、自分の観点から情報を得ることができるため、とても貴重です。私の質問に対し、心ここにあらずで答えたくないという彼の気持ちに心を打たれました。世界の反対側からその人に連絡した経験は、とても刺激がありました。インタビューの前の考えは、インタビュー後に完全に覆りました。物事を違った観点から理解することができるチャンスでもあります。お金には変えがたい経験といえます。もし、誰かが自信を持って踏み出すことができたなら、将来のタスクにとっても価値ある情報源となってくれるでしょう。

Ibuki (G8A)



## 図書室ニュース

### 文化の多様性と母語の支援をお祝いしました！



第3回国際母語日が、2月21日KISTで開催され、過去2回よりもさらに楽しいものとなりました。KIST図書室はPTA図書委員会やイベント委員会とパートナーとなり、学内の文化啓蒙を狙う生徒中心の活動を行いました。朝の各国のコス

チュームによるパレードでは、エレメンタリーの生徒は色あざやかな伝統衣装に身を包み、校庭で国旗を振っていました。



セカンダリーの生徒は、G11のJeanineとMin Woo、G6BのEmani、Michiruのリードの下、「A Better World」を歌い、その後Mr Leroyとグレード2～5の生徒による「Waka Waka」ダンスに合わせて一緒に踊りました。エキシビジョンでは、iCaptureデジタル写真エントリー作品の紹介と、セカンダリーの生徒作による各国PowerPointショーを行いました。



一方、子供たちに母語による朗読をしてくださる保護者ボランティアを募集し、多大なご反響を頂きました。話者をつとめてくださった保護者の皆様は、フランス語、タミール語、韓国語、スペイン語でお気に入りの話を紹介していただきました。日本語課の教員の参加をうけ、かるたゲームもLMCで行われました。「グローバルショーケース」では、SRC調整の下、ジム内で民族衣装のファッションショーを行いました。夕方のセカンダリースクールSRC主催によるダンスも、イベントにちなみ「グローバルハート」と名づけられました。

PTA文化交流委員会、保護者の皆様、およびこのようなイベントを成功させるためにボランティアで活動してくれたセカンダリーの生徒およびスタッフの皆さん、どうもありがとうございました。

また、常日頃の図書室活動へのご支援とiCaptureチャレン



ジ優勝者への1500円分のiTunesカードのご寄付に対し、PTA図書館委員会の皆様にご心からお礼申し上げます。



iCapture Challenge winners: Emily (G6A), Jeanine (G11A), Hana (G6A), Jiaying (G10A) and Erika (G12A)

生徒は、自分や友人の言語とのつながりを経験し、KISTでの文化的多様性を祝うことができました。各国コスチュームによるパレード、MPRエキシビジョン、保護者によるストーリーテリングの写真は、エレメンタリーライブラリーとLMC Moodleページで見ることができます。

### 「Guess Who?」入賞者の皆さん

DEARのGuess Who?の入賞者の皆さん、おめでとうございます！ Eanya (G3B)、Miku (G4B)、Yoo Mee (G4A)、Kishore (G4A)、Armaan (G4B)、Nimit (G6B)、Max (G6B)、Meng Ting (G7A)、Dong Wook (G7B)とYohdai (G7B)が、Guess Who?ゲームの幸運なラッフルの当選者です。PTA図書館委員会寄贈の、500円の商品券を授与しました。参加いただいたみなさん、特にポスターのモデルとなってくれた先生方、どうもありがとうございました！

### さくらメダル2014

さくらメダルブックチャレンジと、さくらブックトレイラーコンテンツに今年も参加しませんか？これらのコンテンツは、日本国内の多くのインターナショナルスクールの図書室や先生によって運営されています。この活動に興味がある生徒は、日本語の先生または図書館員に聞いて情報をもってください。

インターナショナルスクールの図書司書が、今年のさくらメダルの本を選択するには生徒の意見が必要です。図書司書チームが候補本を選択しますが、一番よい本を選ぶのは生徒です。ぜひ参加してください。候補作品の中から5冊(MYPとDP生は3冊)読書し、好きな本に投票してください。

さくらメダルブックレットを完成した生徒は、**4月11日**前までにエントリーを提出してください。さくらメダル本と投票ブックレットは、LMCとエレメンタリー図書館の丸机の上です。優勝者は4月18日に発表されます。

The KIST Libraries Team





## KIST主催MUN会議の成功...

1月の寒い朝、60名のKIST生徒(代表団、生徒役員や管理部門スタッフ)が、横浜インターナショナルスクール、ブリテッシュスクール、玉川アカデミーを迎え入れ、今年第7回目となる**Near East Model United Nations Scrimmage**を開催しました。

今年の会議には、2人の12年生**Moyu** (G12B)と**Abhi** (G12B)が事務総長の役割を行いました。開会のときにイスラエル大使館のメディア担当Mr Ronen Medziniのインタビューを行いました。議論はとても活発、かつ深いもので、全生徒が世界における外交の役割とイスラエルの役割について貴重な見解を深めました。

その後、会議での問題を委員会が解決していきました。**Eun Ji** (G12B)、**Keerti** (G11B)と**Jiaying** (G10A)、が会議中に委員会議長を務めました。無線無人戦闘機から女性への暴力防止まで、さまざまな議論がなされました。とある女性代表者は、以下の経験を共有してくれました。



**M**UNは、私にとって、最高の経験であり、同時に一番不安になる状況でした。

MUNのような会議に参加した経験はありませんでしたので、大変胃が痛みました。3ヶ月の間にMUNの準備を行い、ついにディベートの日が到来しました。

MUNは、まずイスラエルの外交官へのインタビューで幕開けとなりました。聴いていると刺激的で、若いにもかかわらずあのような威厳のある職位についていることに驚きました。その後いくつかの委員会に分かれ、最初の議題を話し合いました。私は、人権の委員会に入り、最初のディベートパートナーのSara (G10A)とでシリアの人権問題について話しました。とても、情熱的な議題でしたが、2つめの

議題のほうが安心できました。昼食後、「インドにおける女性へのドメスティック・バイオレンス」に話を進めました。はじめは、この議題に関しての最初の発表国だったため、とても懸念していました。まず、私の国、ケニアのことを冒頭スピーチで話し、次にインドでの女性に対するドメスティック・バイオレンスへの啓蒙活動を行いました。その後その他の国からも決議案に向けたそれぞれの考えを聴くことができました。

他の学校からきた新しい人に会い、問題を話し合い、共に問題解決に向かって作業でき、とてもやる気になりました。今回、他国が採決できるような決議案を出しました。決議案について、長い時間を費やして話し合った後、すぐに可決を決定する投票を行いました。私は有頂天になりました。最後に、あと数分を残し、最高の人

の投票も行いました。結果、ベストスピーカーとベストディベーターをいただきました。喜びを抑えることができませんでした。初参加のMUNであったにもかかわらず、このような素晴らしい賞を皆からもらえて、本当に感謝しています。

MUNは、自分自身のさまざまな面をのびしてくれました。MUNによって、ディベーターのスキルを磨くだけではなく、新しい人との出会い、地球上の問題にさらに意識を払うことができるようになりました。MUNに参加した後、人間として大きく成長でき、人々の前でも話せるようになったと確信しています。スピーカーとして成長したい人には、この参加を強く勧めたいと思います。

**Aika** (G10B)



## エレメンタリーSRC

エレメンタリースクール生徒委員会(ESRC)は、週に1回集会を開き、色々な関心点や決め事について話し合っています。また、エレメンタリースクール内での問題への関心を高め、問題解決に向けて活動しています。ESRCのクラス代表は学校中で全てのクラスのメッセージが行き交い、行き届くように努めています。これまでの活動として、全クラスにアンケートをとりFree Dress Dayのテーマを決めました。また、先生達が学校に必要なと思うものをインタビューとアンケートで調べ、集めた資金の使い道について話し合いました。その結果、ガイドリーダー



を購入しました。現在は、生徒達が良識的に行動するように、校内の廊下ルールを発表できるように取り組んでいます。多くのクラスが同じ階段を使いリセスに行き、同様に教室へ戻ります。新しいシステムを使うことで、生徒達が校内を移動するときに責任と良識のある行動をとることが出来るよう目指しています。ルールを近日に発表、実施する予定です。



## セカンダリーSRC

### 新しいSRCロゴ



SRCロゴのデザインを考え始めて、まず頭に浮かんだのはここ数年来学校のマスコットになっている彗星を入れ込むことです。そこで、中央に流れ星の形を入れることにして、セカンダリースクールSRCの14のホームルームクラスを示すような14点を描きました。その他の大きな構成要素は、彗星の背景です。中央の丸には色の異なる14のセクターで作られています。中央に使用したのは、KISTハウスカラーの4色で、それぞれKISTを代表しています。学校のマスコットとハウスカラーでできたロゴは、ある意味SRCだけではなく、KIST全校を象徴しているかよう



です。しかし、このような2つの要素が生徒である私たちを結びつけ、別々の14のクラスルームと統合させ、ひいては学生を結びつけているので、このロゴ自体が象徴する組織自体とメタファー的に共鳴しているのではないかと思います。

今後、ロゴによって生徒がSRCの代表する全ての生徒それぞれを思い出し、私たちが顔の見えるSRCとして、本校をさらによりよくする活動へとつないでいける事を祈っています。

Angela (G10A)

### SRCグローバルショーケース

SRCは、2月21日毎年行われる国際母語日の一環として、グローバルショーケースを主催しました。生徒の文化的多様性を推進および提示し、同時に民族衣装の美しさを学生が堪能できる機会として、このイベントを運営しました。この点において、全学年から世界の11の国を代表する31人の生徒が参加し、成功したといえます。イベントに参加いただいた勇氣と創造力にあふれた皆さん、どうもありがとうございました。皆さん楽しめたことと思います。これを毎年の恒例のイベントにする予定ですので、来年もどうぞお楽しみに。

Kouta (G11B)



## Staff 10!

今月のStaff 10!では、2003年にKISTに仲間入りしたRobert Whittakerを紹介させていただきます。Robertは現在ITソフトウェア・ハードウェアコーディネーターの役職についています。



オフィスの自分のデスクに座っているMr Whittaker。

### ● 出身地について面白いことを教えてください。

私はオーストラリア、シドニーにあるノース・ナラビン出身です。ナラビンは、Beach Boys'の歌、Surfin' USA!に出てくるマンリー北部にあるシドニーで一番有名なビーチで、プロサーフィンイベントの開催地でもあります。オーストラリアの映画Muriel's Weddingの一部が撮影された場所でもあります！

### ● 世界で一番好きな場所はどこですか？

家がある所だと思います。家のようにくつろげる場所は他にはありません。今は日本が私の家です。

### ● チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

バンドThe DarknessのJustin Hawkinsだと思います。彼のボーカルは想像を絶します。

### ● 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

ピアノで作曲をしますが、久しくしていません。

### ● ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

初めて行ったコンサートは、Gloria Estefanでした。

### ● あなたにとって一番の宝物は？

私にとって妻とオーストラリアにいる家族以上に大切なものはありません。

### ● ご自分を言葉で表現すると？

静かで頑固。職場と家では別人です。

### ● もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

幼い時から色々な言葉を学ぶと思います。私の今までの日本での言葉や文化的な経験と同じようなものを他の国でも体験できると思うと、他の言語に惹かれます。

### ● 自分を高めるために今やっていることは？

学校、保護者、生徒と教員の間でのコミュニケーションを出来るだけ効率よくするために、校内でのソフトウェアとアプリケーションを開発することです。学校は常に改善されているので、一歩先にたち学校の要望に応えていくのはチャレンジです。

### ● ファンに一言お願いします。

シンプルなおことの複雑さを軽く見てはいけません。ITを担当して思うのが、ただ色々をクリックしたら用が済むと思っている人が沢山います。複雑なものをもっとシンプルにすることに隠れた美しさがあります。それを念頭に、KISTコミュニティの為に学校のシステムを改善し、みなさんがITを楽しんで利用できるように努めていきたいと思っています。みなさんのフィードバックはいつでも歓迎です。



## オフィスアップデート

### スクールランチのオーダーについて

3月31日～6月11日分のスクールランチの変更、キャンセルの希望者は**3月21日(金)**までに**School Lunch Order Form**をスクールオフィスまで提出ください。フォームは以下のリンクから入手可能です。

<http://www.kist.ed.jp/node/5>



### オーダーメイドの制服

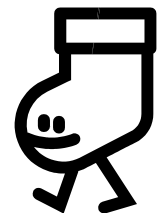
前回お知らせしましたように、規定のユニフォーム(セカンダリー男子のグレー長ズボンを除く)が、200円の追加料金で、ご希望のサイズにオーダーメイドできるようになり、大きなサイズも購入可能になりました。そのため、以前に規定外のユニフォーム着用を許可されていた生徒も、**2014年8月**から規定の制服を着用するようお願い致します。



仕立て業者の方がフィッティングを行います。保護者の方には必ず同伴していただくことになっています。フィッティングの予約はリセプションで受け付けています。オーダーメイドの制服が仕上がるのに一か月半ほどかかることをご理解ください。

### スクールユニフォーム ソックス

大半の生徒が指定どおりに制服を着用し、KISTのすばらしい代表となってきている事を嬉しく思います。ご協力ありがとうございます。一つ注意点があります。服装の規定にあるように、**黒いソックスのみ**が許可されています。くろぶしソックスは認められていません。黒いソックスはリセプションにて200円で購入可能です。**規定のソックスを履いていない生徒は、規定のソックスを購入して履き替えていただきます。**



### 退校について

今年をもって登校を退校する予定の方は、**最終登校日**前に出来るだけ早く、**Student Withdrawal Form**(スクールウェブサイトCommunity上のFormsページにて入手可能)を提出してください。退校につき、以下の項目を確認ください。

- 保護者IDカードと、お子さんのIDカードをレセプションまで返却ください。
- 各ライブラリーへ借りている本をご返却ください。
- 未収料金が無いことをご確認ください。
- SSPの役職を全て完了するように手配をお願い致します。役職を完了させなかった方には、**25,000円の支払いが発生します。**



## 運動競技冒険談

女子U18バレーボールチームが、3度連続勝利をおさめ、**3年連続**ISTAA チャンピオントロフィーを獲得するという大ニュースで、KISTの2013～2014運動シーズンがいよいよ幕開けとなりました。Mr Lee、Mr Horiと選手の皆さん、おめでとう！



2013 ISTAA U18女子バレーボール  
チャンピオンー3年連続



女子チームキャプテン、Miku (G12B)がトロフィーを  
再度持ち帰りました

U18の男子チームもISTAA最終戦で戦いましたが、KAISIに判定負けしました、U14女子AとBチームの大半は、バレーボール初心者でしたが、今シーズンのがんばりでスキルを伸ばし、毎回試合ごとに強くなっていきます。みんな、がんばりました！

お待たせしました。募金活動(生徒の選手、PEスタッフとPTA)がついに報われたことお知らせします。新しいスポーツユニフォームがついに届いたのです。学校代表の自信とプライドを持って、チームワークとスポーツマンシップを掲げていきましょう。ご尽力いただいた皆さん、ありがとうございました。



新しいバスケットボールとバレーボールキットのモデルをしている選手たち

L>R: Motoi (G10A): 男子バレーボール(グレー)/Tyson (G10B):  
バスケットボール(リバーシブル青)/Erika (G12A): 女子バレーボール/Miku (G12B): バスケットボール(リバーシブル白)

次号では、ISTAAバスケットボール/フットサルニュースとPYPスポーツニュースです。

コメッツ、がんばれ！

**Jay Leroy**  
Athletics Director / PYP/MYP PE Teacher



## PTAベルマーク委員より...

日頃より、ベルマーク収集にご協力いただきまして、ありがとうございます。

最近には特にテトラパックの回収量が増え、ベルマーク委員は活動日を増やして、集まったテトラパックを箱に詰めてベルマーク財団に送っています。テトラパックですが、学校にお持ちいただく際、中をすすいでから開いてお持ちいただくと大変助かります。場所は西館foyerに回収boxがあります。

現在、**52945**ポイント(1ポイント1円)になりました。ポイントを使つての備品購入についても検討を始めています。

皆様の引き続きのご協力、よろしく願いいたします。



## 保健便り

### 食物アレルギーの診断

先日1/28に「学校における食物アレルギーについて」昭和大学医学部小児科学教室の講師Dr 今井考成の講習を受けてきました。2時間と短い時間でしたが、知識の再確認、新しい情報の取得ができ、有意義な時間を過ごすことができました。今回、講習テキストから一部抜粋しご紹介いたします。



#### 「診断と必要最小限の除去食と耐性の獲得」

食物アレルギーの診断は食物負荷試験により行われるのが基本です。食物負荷試験とは即ち原因と推測される食物を実際に食べ、その反応の有無をみる検査です。かつては原因食物に対するIgEの結果だけで食物アレルギーが診断されてきた冬の時代が長く続きました。しかし、皮膚テストを含めて検査結果は食物アレルギーの診断傾向が判るだけであって最終的にその食べ物が食べられるのか否かは食べてみなければ判りません。検査の結果だけで除去指示が続いていた場合には、一度食物負荷試験を行ってみることも考えてもらいましょう。また年齢を経るに従い、原因食物が食べられるようになる(耐性の獲得)ことも多くあり、鶏卵、牛乳、小麦などの主要原因食物は3歳で50%、6歳で

80%程度が食べられるようになって考えられています。

医師や保護者の“念の為”“心配だから”除去される食品が増える傾向がありますが、果たしてそれで良いのでしょうか。東日本大震災のような災害が起きた時、食物アレルギーがあることは、避難食や炊き出しを食べる時に大きな障害となりました。“食べられないもの”はたとえ非常時でも食べることはできませんが、“本来食べられるもの”を根拠なく食べないでいることは、普段ならまだしも災害時に児と保護者にとって、例えようもないストレスをかけることになるのです。

“...最終的にその食べ物が食べられるのか否かは食べてみなければ判りません。”

食物アレルギーの正しい診断のためには、負荷試験が基本と考えること、皮膚テストや血液検査(IgE)は確定診断の材料にはならないことがわかりました。アレルゲンに接触し皮膚症状がでたとしても、食べてみたら何でもなかったということがあるようです。だからといって自己判断で原因と推測される食物を食べさせないでください。まんがいちアナフィラキシーショックを起こした時、適切な処置が受けられないので注意が必要です。食物負荷試験を受ける際には必ず専門医のもとで行って下さい。

Maki Whittaker  
School Nurse

## PTAライブラリー委員より

### IMLD

IMLDでさまざまな言語の本を読んでくださった方、各国語の本の寄付して下さった方、準備また当日手伝ってくださったたくさんの方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。また今回PTAがスポンサーとなって落語とかるたの講演会をSecondary Japaneseのクラスで行えました。生徒たちは日本の文化に触れ非常に楽しい時間を過ごすことができました。

### Book club



初回に引き続き第二回もたくさん本を購入していただきありがとうございました。カタログや届いた本の仕分け・配布をLibrary Committeeでは行っています。興味ある方はどうぞA KIST PTA Library Committee [pta.library@family.kist.ed.jp](mailto:pta.library@family.kist.ed.jp) までご連絡ください。現在、第三回目の注文を受けていますのでお忘れなく！



PTA Library Committee

## KISTでのCASとコミュニティー&サービス

**Creativity, Action Service (CAS)**と**Community and Service (C&S)**は、IB DPとMYPに連続するプログラムです。両プログラムの精神は、生徒をコミュニティーや自身の生活を改善するための主体となるべく自己形成するように導くことを目的としています。C&Sでは、MYPの生徒がコミュニティーにおいてサービス志向の活動を協働し、主導していくことを重視しています。これは、DPのCASでさらに発展させていくサービス学習の入門編になります。選択コースや時間管理の問題で、DPの生徒にはほとんど機会がなかったり、不可能な活動や創造活動などもCASで行います。究極的には、生徒がそのコミュニティーから与えられた機会に感謝し、生徒が自身の強みと能力に対する洞察力を得ることになります。KISTでは、両プログラムが生徒の

人生と彼らがプログラム活動中に交流した人にとっても大きく影響を与えているという結果が出ています。

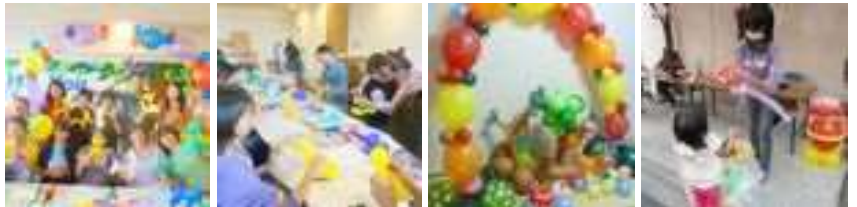
以下が、本校の生徒による優れた行いの一例です。生徒がどのように「振り返り」「証拠記録」したか、その事例を紹介することで、他の仲間たちがプログラムに向けて同様の行動やアプローチしようと感化されればよいと思っています。思いやりと道義心のある態度でサービス学習プログラムに参加していただき、ありがとうございました。

**Daryl Bates**  
C&S/CAS Coordinator



**Maria (G12B)**

CAS



### アクティビティ: 小児病院で行なわれた誕生日会のためのバルーンアートの準備

学習結果: 協働、倫理

他人と協力しての作業:

多くの方がこのアクティビティを助けてくれたことによって、少ない時間でより多くのバルーンアートを作る事ができました。何か分からない事があった場合には、お互いに風船の作り方を忘れた人や知らない人に、教えてあげることができました。

倫理的な意味を考える:

病院にいる乳児たちは、皆孤児です。親御さんが亡くなったか、囚われの身です。毎月誕生日会を開くことは、病院の孤児にとってはとても重大な意味を持ち、彼らの存在を証明する要となるイベントを祝ってもらうことで、生きている意味と生きなければならない意味を与えます(孤児は、拒絶や見捨てられた等の状況のため)。こうしたパーティーによって孤児たちは感情的なサポートを得ることができます。無責任に子供を捨てる若い親が増え、私は大人になったら責任ある人間にならなければならないと感じました。



**William (G7B)**

C&S



### アクティビティ: チュータリング(家庭教師、個別指導)

学習結果: 認識、挑戦、協働、独創性、新しいスキル

私のチュータリングは、人々が英語を学習し、海外に行って外国人と会話できるようになることを助けるという意味で、コミュニティーの役に立っている。また、先生はチュータリングすることでお金を取得し、私も先生に利益を与え、私はC&Sポイントの利益を享受している。また、生徒の保護者にとっても、子供から英語を教わることができ、他の保護者にも英語レッスンに参加するように話すかもしれない。

## インターネットの安全な使い方

今日の情報化社会において、インターネットは子どもの学習に必要な不可欠なものとなりました。ご家庭でもお子さんがインターネットを利用して調べものや宿題をしている姿をご覧になることがよくあると思います。また、最近では小学生のうちから携帯電話・スマートフォンを持つ子どもも増えています。しかしインターネットは子どもたちの学習や生活を便利にするだけではありません。インターネットの利用には以下のような危険も潜んでいます。

- 犯罪被害(性犯罪、薬物問題、恐喝など)
- ネットいじめ
- パソコン・スマートフォン利用過多による体調不良・ネット依存
- 個人情報の流出
- アダルトサイトなど有害サイトへのアクセス
- 名誉棄損

今回は、犯罪被害から子どもを守る為にご家庭ではどんなことが出来るのか考えていきたいと思います。

子どもたちはFacebook、Twitter、InstagramなどのSNSや、SkypeやLINEなどの無料通話アプリをコミュニケーションのツールとして使っています。これらを使うと、クラスメイトや学校外での活動で知り合った友達だけでなく、新たに他人と知り合い、インターネット上で交流することができます。子どもの中には、インターネット上で知り合った人に名前や住所、学校名など個人情報を教えてしまったり、実際に会ったりしてしまう子もいます。インターネット上で知り合うすべての人が悪い人ではありませんが、性犯罪や薬物の売買、恐喝などの犯罪を目的にSNSや無料通話アプリを利用する人がいるのも事実です。最近では、出会い系サイトだけでなく、SNSや無料通話アプリを通じて、子どもが犯罪に巻き込まれることも増えています。このような危険を少しでも回避できるヒントとして以下をお勧めします。

- お子さんがどのようなSNSや無料通話アプリを利用しているか把握する。  
これらがどのようなものなのか、年齢制限があるかなど、調べてみて下さい。例えば、13歳未満の子どもがTwitterやFacebookを利用することは禁止されています。
- 名前、住所、電話番号などの個人情報をサイトに書き込んだり、他人に教えたりすることの危険性を教える。  
個人情報を教えてしまうと、他人から嫌がらせをされたり、ストーキングされたりしてしまうことがあります。また、誰でもアクセスできるサイトに顔写真を載せたり、他人に顔写真を送ったりすることも同様に危険です。
- 知らない人と連絡を取ったり、会ったりしてはいけないと伝える。  
ネット上には年齢や性別を偽り、連絡を取ってくる人もいます。実際に交流のある友達や知り合い以外にメッセージを送らないように指導してください。また、プライバシー設定を行い、他人にプロフィールが見られないようにしてください。



- インターネットは保護者の目が行き届く場所で接続させる。  
お子さんがインターネットを使ってどのようなことをしているか、たまにチェックするようにして下さい。また、携帯・スマートフォンも保護者の目が行き届く場所で使わせるようにすると、他人との交流やアダルトサイトなど有害サイトへのアクセス、スマートフォン利用過多による寝不足などをより防ぐことができます。

お子さんを犯罪被害から守るためには、まず保護者の方が、どのような危険がインターネットに潜んでいるかを知ることが大切です。そしてご家庭でインターネットの利用のルールを決めて、お子さんがきちんとルールを守るよう徹底してください。何かご質問・ご相談がありましたら、いつでも気軽に私 ([nanami.komaki@kist.ed.jp](mailto:nanami.komaki@kist.ed.jp)) にご連絡下さい。

**Nanami Komaki**  
Student Welfare Counselor



## 卒業生レポート

Katina Kangは、KIST2010年度卒業生です。彼女はマイアミ大学で生物学を専攻し、この4月から日本国内最大手のひとつである製薬会社で勤務を開始する予定です。

みなさん、こんにちは。KISTクラス2010年卒業生のKatina Kangです。2013年12月、マイアミ大学の生物学の学士課程を修了しました。KISTを卒業して米国の大学に入る際には、不安と心配でいっぱいでしたが、ここでの学びを終えた今、未来への希望であふれています。マイアミの生活は、本当に最高でした。みなさんの中(特にDPプログラムを履修している方々)には、同じように大学選びを不安に思っている人もいるでしょうし、米国への進学を検討している人もいるかもしれません。この点から、私の米国大学での生活と勉強の経験を皆さんにお伝えしたいと思います。

まず、私が進学した大学の情報をお知らせします。マイアミ大学(UM)は、2012年全米トップ大学の38位にランクし、フロリダ州で最高の大学として知られています。名前のとおり、場所はアメリカで最も温暖な都市マイアミにあり、年間の平均気温は25°Cです。学部と大学院を併設し、UMの生徒数はおよそ15000人です。キャンパスは椰子の木、湖、そして野鳥や動物といった美しい風景に囲まれ、その中心にはおしゃれな校舎があります。

概して、米国の大学と他の国の大学の違いは大きく3つあると思います。まず一つ目に、学生は、自己挑戦できる環境があります。大学1年生のとき、私は生物学の上級コースを履修しました。教材も難しく、コース後に内容の確認をするため、よく教授に質問にいきました。やがて、私は教授の医学部のラボでリサーチを行い、さらにそのラボ代表として学術ポスター大会に参加する事を許されるまでになりました。生物化学を学び始めたばかりの新生入学生として、教授や院生と一緒に学べたことは、素晴らしい機会でした。さらに、学期中や夏休み中に履修クラスを増やしてもよければ、卒業を早めることもできます。自分自身に挑戦し続ける気持ちがあれば、この大学は最大限の支援をしてくれるでしょう。

次に、教室外でも学べる機会がたくさんあります。UMは、Richard Dawkins、Barack Obama大統領、Dalai Lama等の見識者を招き、学生向けの講演会を開きました。米国の学校では、このようなことは良くありません。また、構内にはキャリアセンターがあり、学生の就職活動をサポートしてくれます。地元の企業を招いての就職イベントや採用担当の方を招いてそのプロセスについて講演してもらいます。また、多数のクラスでも、外部のスピーカーを招き関連するプレゼンテーションをしてもらうことがあります。私にとって一番印象に残ったのは、元薬物依存者で彼の人生をスピーチしてくれた薬物乱用社会学のクラスでした。

最後に、ダブルメジャーのシステムもとても良かったです。全く分野の違う2つ以上の専攻をとることができます。自分で時間のやりくりが可能ならば、好きなものを選択できるのです。例えば、化学主専攻の学生が、政治科学、芸術といった分野を副専攻とすることもできます。さらに、専攻分野にかかわらず、全学部から自由にクラスを履修できます。私は科学専攻でしたが、興味があった音楽クラスをいくつか履修できました。

今DPプログラムを履修している皆さん、またはこれからDPに進もうとしている人、勉強をがんばってよい成績をおさめてくださいね。HL科目で5以上(さらに高いランクの大学では、6および7)をとれば、大学の単位がもらえるので、自分のペースで必修コースを履修する自由、または専攻以外の選択クラスを履修することができるのです。もし、卒業を早めたいのであれば、これは特に役にたち、授業費の大幅な削減になります。

もし、勉強がうまく進まないときには、どの科目で勉強が必要か自分のレビューシートを作成することをお勧めします。教科書や教材を読み、自分自身の言葉で自分の理解したようにキーとなるコンセプトをリライトしましよ



う。教科書の分をそのままコピーしてもだめです。また、他の学生と一緒にスタディグループを作ってみるのも良いでしょう。他の人に説明することは、何かを学ぶ方法としてお勧めです。

もし、米国の大学に進学することを決め、大学卒業後に日本で就職したいと思っていたら、ポストンキャリアフォーラムという素晴らしいイベントがあります。日本語/英語のバイリンガルを対象にした世界各地で行われる最大の就職フェアで、ポストンでは冬期に3日間開かれています。毎年、100を越える優良企業が参加し、とても良い機会です。もし、優秀な学生なら、この3日間で就職の内定をすることもあります。

私は大学で多くを経験しました。米国の大学に進学しなければできなかったことがたくさんあると思います。貴重な経験により私は人として強くなることができ、この大学での時間を忘れることはないでしょう。この文章が、人生の決断をしている誰かにとって役に立つことを祈っています。読んでくれてどうもありがとう。

**Katina Kang**  
KIST Alumnus "Class of 2010"





# カレッジガイダンスニュース

## KIST acceptances and offers

すでにイギリス、アメリカ、カナダ、及び一部の日本の大学に出願した生徒に、良い知らせ(時には悪い知らせ)が続々と入ってきています。まだ、結果を待っている生徒やこれからの締め切りの大学やローリングアドミッション(定員枠がなくなるまで出願を受け付ける)の大学に出願する生徒もたくさんいます。今年度の大学合格リストはファミリーデーで発表します。おめでとう12年生、この調子で5月のDP最終試験までがんばってください!

## KIST alumni talks



**George Brova (KIST "Class of 2008")** が1月7日に学校を訪れ、火曜日アドバイザーの時間にセカンダリー生徒全員を対象にプレゼンを行い、彼の卒業したKISTとボストン大学での経験について楽しく話してくれました。ボストン大学では4

年間全額支給奨学金を得て、その間にコンピュータサイエンスの学位と修士号を修得しました。現在はこの分野のトップ校として知られるイリノイ大学で、また全額支給奨学生としてコンピュータサイエンスの博士号を目指して勉強をつづけています。当日は一番前のほうの床に座っていたセカンダリーの一番低学年の生徒たちまでもが彼の話に興味を聞き入り、楽しんでいました。



**Katina Kang (KIST "Class of 2010")** は、2月18日、11年生の火曜日アドバイザーの授業に来て、11年生に話をしてくれました。KISTですごした2年間のDPのこと、通常4年かかるところをわずか3年半で卒業したマイアミ大学(生物学

専攻)でのことなど彼女の個人的な経験をシェアしてくれました。(24ページの彼女が書いた記事をご覧ください。)

George と Katina ありがとう。  
さらなる成功とご活躍をお祈りしています!

## G11 college guidance

11年生の生徒、保護者の皆様、2月28日(火)の夜に行われたG11 大学説明会にお越しいただきありがとうございます。現11年生がこれから数カ月のうちに本格的に始めることになる大学出願のプロセスについて、その概要をお伝えすることができたかと思います。セメスター1の11年生火曜日アドバイザーでは、主な国々の大学高等教育システムについて学び、それぞれの興味分野を測るサーベイなどにもとづいて、キャリアと大学での専攻との関係を調べました。セメスター2では、いよいよ個別の大学検索と出願準備にとりかかり、Mr Hughesと Mr Cowelによる出願理由書やカレッジエッセイの書き方ワークショップが行われます。すでに配布されたMy Post-KIST Planという名のブックレットには、興味の自己分析のページや、まもなく始まるMrs Okudeと Mr Hiro Komakiとの個人面談に必要な情報を書き込むページ、大学リストや夏の計画リストのページもあります。保護者の方にはぜひこのブックレットをご覧ください、お子さんと一緒に考え、話し合っ、準備を進めていただきたいと思います。

## College visits and college fairs

春にも学校内外でさまざまなイベントが開催されます。世界各国の大

学高等教育についてより詳しくお知りになれるまたとない機会です。ぜひご利用ください。

## KISTでの大学説明会:

保護者の方も参加歓迎です!

- 3月17日(月)、3:40-4:40 p.m., **UBC (University of British Columbia) (Canada)**
- 4月1日(火)、2:40-3:40 p.m., **City University London, Goldsmiths University of London (UK)**
- 4月3日(木)、3:40-4:40 p.m., **McGill University (Canada)**
- 4月7日(火)、1:40-2:40 p.m., **George Washington University (USA)**
- 4月18日(金)、1:00-2:00 p.m., **The Cooper Union, NY (USA)**
- 4月24日(木)、3:40-4:40 p.m., **Ecole Hoteliere Lausanne (Switzerland)**

## KIST Spring College Fair 2014:

3月21日(金)2:00-4:00pm KIST 体育館にて  
日本、イギリス、アメリカ、オーストラリアから25以上の大学が参加します。世界の有名大学からの代表者の方や現在大学に在籍しているKIST卒業生と直接話ができる機会です。ぜひお越しください。このイベントは全KISTコミュニティを対象としています。参加大学リストは下記をご覧ください。

参加大学(3月13日現在):

国際教養大学(秋田)、プリティッシュカウンスル、コロンビア大学、コーネル大学、同志社大学、ジョージワシントン大学、ハーバード大学、北海道大学、国際基督教大学、城西国際大学、順天堂大学医学部、慶應大学GIGAプログラム、レークランド大学、明治学院大学、メルボルン大学、名古屋大学、岡山大学、大手前大学、ロンドンリージェント大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、上智大学、多摩大学、玉川大学、テンプル大学日本校、東京国際大学、筑波大学、ケント大学、マイアミ大学、早稲田大学国際教養学部、早稲田大学政治経済学部、早稲田大学理工学部、ウェルズリー大学、イェール-NUS(シンガポール国立大学)、横浜国立大学

## 学外での大学フェア(一般公開):

詳細は各サイトをご覧ください。

- 3月20日(木) - 21(金)、カナダ大使館にて、**Study in Canada Fair Spring 2014**  
<http://www.canadainternational.gc.ca/japan-japon/study-etudie/events-evenements.aspx?lang=eng>
- 3月29日(土)、新宿エルタワーにて、**Beo Study Abroad Fair**  
<http://www.beo.co.jp/fair/english/index.html>
- 3月31日(月)、プリティッシュカウンスルにて、**Education UK Fair 2014 Spring**  
<http://www.educationuk.org/japan/articles/edukfair2014spring>

お子さんの大学進学やキャリア選択についてご質問等がございましたら、どうぞお気軽に奥出までメールでアポイントをお取ください。お待ちしております。

## Mrs Keiko Okude MBA

College Guidance Counselor  
Office hours: Monday, Tuesday,  
Thursday, Friday 10:00-17:00  
[keiko.okude@kist.ed.jp](mailto:keiko.okude@kist.ed.jp)

